Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東 部 教 育 局
〒680-0846
鳥取市扇町２１番地
東教発 H24.6.5　No.114
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

『 あなたも主役　わたしも主役　みんなで創る若桜学園 』

小中一貫校として　～ 学びの扉　今ひらく ～

若桜学園小学校
若桜学園中学校

「若桜を愛し、世界に羽ばたく、心豊かでたくましい子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、若桜学園は、夢と希望に向かって歩み始めました。学園開校までのあゆみや開校後の２ヶ月間には、多くの発見や新鮮な驚きがありました。新たな歴史の創造と学校教育目標の実現に向け、子どもたちと教職員が一つになって、充実した日々を積み重ねています。

ワクワク感 ▶ ドキドキ感 ▶ 一体感 ▶ 安心感 ▶ の中で

連続性を踏まえた教育の推進

「９年間の積み上げ」と「発達段階の特性を生かしたブロック制」

学習面

- 連続性を最大限に活かした教科領域の指導を学校全体で展開する。
- 教材研究や指導案作成を学年や教科の枠を超えて行う。
- 小中学校の教員が協力しながら日常的にＴＴ形式の授業を行う。
- 互いの授業参観を日常的に行い、小中合同授業研究会で率直な意見交換を行う。

目標の明確化と連鎖

生活面

- ９年間の成長過程を情報共有し、背景をとらえた上で適切な対応を行う。
- 学校生活や小中合同行事を通して、人間関係づくりを推進する。
- 児童生徒による自治的活動を位置づける。
- 移行期（中期ブロック：５～７年生）への仕掛けを特に工夫する。

地域と共に

- 登下校の見守り
- 日常的な来校と参観
- 地域行事とのリンク

これから ▶ 自分たちで創る喜び・楽しさ ▶ 取組状況と可能性の発信

木材にすべて若桜材が使われている増築棟は、心地よい木の香りに心が癒されます！

「連続性の中での教科領域の指導」「連続した学校生活による心の安定と育成」は、小中一貫教育の要となるものです。そして、この二点は、そのまま小中連携においても中心的な柱です。「義務教育９年間を見通した学び」の視点を持った、連続性のある教育の営みが、各学校においてますます広がっていくことを期待します。

授業の評価から子どもたちに力をつける

局長　久岡賀代子

前期の学校訪問が始まりました。全学級の授業を見ると、校長先生が４月に出された学校経営方針を意識した『授業づくり』に学校全体で向かっていくという意気込みを感じます。

学校には一人一人の子どもたちに、人としてしっかり社会で生きていく力をつける責任があるということは言うまでもありません。これまで、教育のプロセスを大切にするということから、子どもたちの目の輝き・発表回数等の現象的な面をとらえて授業の評価をする傾向がありました。もちろんそれも興味・関心度を見る上で必要なことです。しかし、さらに授業でこれから大事にしてほしいことは、子どもたちにとって「どのような力がついたのか。どんなことが分かったのか。何ができるようになったのか。」という視点に着目する具体的な**授業の評価**です。

嬉しいことに、全教職員の授業研究会が予定されている学校が増えてきました。教材研究や授業評価を深めていくことで、授業が変わります。教師が授業力を磨くと、子どもが変わります。教育の世界では、『児童・生徒の学ぶ姿は教師次第』と先輩の教員から教わりました。各学校の授業研究会において、授業の評価についての研究協議がいっそう深まることを期待します。

学校教育全体で取り組む道徳教育　～道徳教育実践セミナー(5/22)より～

東京家政学院大学の長谷徹教授にご講義いただきました。今、改めて押さえておきたいことや、今後の推進に向けたポイントをお伝えします。

- □ 道徳の時間だけの道徳になっていませんか
- □ 道徳の時間が資料の読み取りで終わっていませんか
- □ ワンパターンの授業展開になっていませんか ☑

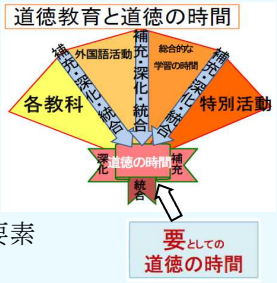
【学校教育全体で取り組む道徳教育とは】

○校長の方針のもとに組織として道徳教育を行う
　⇒道徳教育を進めるリーダーとしての道徳教育推進教師を置く
○学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行う
（例）各教科においても、含まれる道徳的価値を教員が意識しながら指導する
○道徳の時間において「道徳的実践力」を育てる

将来様々な場面に出会ったときに、より適切な行為を選ぶことのできる力

「小学校道徳読み物資料集（文部科学省）」平成23年３月
「中学校道徳読み物資料集（文部科学省）」平成24年３月
◇道徳の授業に活用できるよい資料です。

【これからの道徳教育】



○道徳の時間において、教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する
○道徳的価値の自覚の上に、自己の生き方についての考えを深める
○道徳の時間に押さえたい３つの要素
　・道徳的価値について理解する
　・道徳的価値と自分の生活との関わりを考える
　・少し先の将来に向かって自分なりの課題を考える
　⇒３つの要素を押さえた上で、多様な指導方法に挑戦を！
○心情だけでなく、自立の道徳（＝心情＋判断力＋実践意欲・態度）を意図的、計画的に育てる

道徳の時間は様々な考え方を友だちから聞き自覚を深める機会であることを踏まえて、話合いを充実させていくことが大切です。また、学校で取り組んでいる道徳教育を積極的に発信することで、家庭と連携した効果の高い取組が期待できます。

学事コーナー　個の気概が組織を強くする!!　～自己申告書で自らの成長を求めて～

私たちは、子どもの将来にかかわる仕事についており、日本の将来を担う重責を負っています。だからこそ、私たちは、単に経験に頼るばかりではなく、自らの力量や人間性を高めるために常に研鑽を積み、多くの示唆や指導を受け止め、広い視野をもって柔軟にそして謙虚にこの仕事に携わり、成長し続ける自分でなければなりません。

下表は本県教職員研修体系の一部を抜粋したものです。教職員の経験年数を４期に分け、研修課題が設定されています。　＜県教育センター　平成24年度教職員研修の概要より＞

研修期等	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期
	教職資質の育成	教職資質の向上	教職資質の充実	経営的・専門的資質の充実
	１～５年	６～１０年	１１～２０年	２１年以上
研修課題	教員として必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。	第Ⅰ期の経験をもとに学習指導や学級経営の専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。	職務に関する専門性をより一層高めるとともに、各立場から学校運営に積極的に参画する態勢を自覚する。 学校運営に関する知識や技能を習得するとともに、企画力や調整力を高める。	学校運営・経営全般にわたり、指導的・管理的立場としての力量を高める。 教科指導等の専門性を向上させ、校内や地域の指導的立場としての力量を高める。

みなさんは、今、どのステージに立っているでしょうか？

今後の教職員としての自分をどのようにイメージされていますか？

研修課題は、裏を返せばそれぞれの経験年数で求められる教職員の力量であり姿でもあります。

子どもに精一杯向き合い担任としての力量アップに向かっている方、そこを一歩広げて学年としての動きを視野に入れている方、さらには中堅教員として学校の核となって動こうとしている方、教科指導等専門性に一層磨きをかけようとしている方、学校運営に関わり職員を育てようとしている方と様々な姿があります。学校の中で、みなさんに求められていることは年齢、経験等によって様々ですが、私たちは、子どものために学校のために今の自分に何ができるか、今の立場（与えられた仕事）を一生懸命、誠意を持ってやり遂げたいものです。

教職員の評価・育成制度の自己申告書や評価・育成表が昨年度と同様の内容のものがありませんか？

子どもにとって成長なき教師には魅力はありません。大村はま氏は、「伸びようという気持ちのない人は、子どもとは無縁の人です。」と、若い人でも年配の人でも世代を超えてそういう魂を持っていれば子どもとともにあると述べています。ぜひ、自己申告書に求められる姿を重ね、自らの成長を求めてほしいです。

求められている教職員の姿や校長の期待に応えようとする一人一人の気概は、学校という組織を一層強いものにします。教育のプロとして忙しさを乗り越えて「いい仕事」をしようではありませんか。

児童生徒の支援は「どの子も安心して過ごせる学級集団づくり」から

新年度がスタートし２ヶ月経ちました。ＬＤ等専門員の相談活動の中で、先生方から次のような悩みを伺うことがあります。このようなとき、児童生徒をどのように理解し、支援すればよいのでしょうか。

■学習に集中できない子がいて、授業が進まない。
■友だちとよくけんかするのは、なぜだろう。
■指示したことがなぜ伝わらないのだろう。

まず児童生徒理解をします

□いろいろなことに興味が向き、集中することが苦手な子どもなので、授業中の支援を工夫してみよう。
□感情をコントロールすることが苦手なのかもしれない。相手の気持ちを考えることはできるのかな？
□授業中に、曖昧な指示をしていたな。すべきことが分かりにくかったのかもしれない。

困ったなあ…

困っていたのは、子ども自身なんだ

そうか！分かったぞ

・様々な面から実態把握をする（よい面も見る）
・本人の気持ちをしっかり聴く（教師の捉え方と違っていることもあります）
・行動に至った背景を考える（何か原因となることがあるかもしれません）
⇒担任の見方が変わってきます

見方が変わると、適切な対応や支援を考えるきっかけになります

適切な対応として、まず大切なのは、①学級集団づくりです。これは学級のどの子にも必要な支援です。次に、②校内支援体制づくりです。下記のポイントを参考にして支援を進めましょう。

①どの子も安心して過ごせる学級集団づくり

★あたたかい学級経営

・先生の態度や言葉かけ、友だちの関わり方などの人的環境が整っている。
・認め合い支え合う人間関係づくりができている。等

★分かる授業づくり

・めあてがはっきりしている。
・学習の見通しがもてる。
・意欲がもてる授業構成を心がけている。
・指示や発問が分かりやすい。
・視覚支援の活用をしている。等

★落ち着いてのびのびと学べる学習環境

・学級のルール、学習のルールが分かりやすい。
・整理整頓され、何がどこにあるか分かりやすい。
・黒板のまわりがすっきりしている。

「通常学級における特別支援教育」も参考にしてください
鳥取県教育委員会　平成２３年発行

どの子も安心して過ごせる学級集団づくりは、特別支援教育の基盤となるものです。

②全職員で児童生徒を支援する校内支援体制づくり

★校内委員会（特別支援委員会等）で、支援の方向性を検討

・校内委員会では、児童生徒の実態把握にもとづき、支援の方針や具体的な支援方法を検討します。
・検討したことを、全職員（チーム）で共通理解をしていきます。

○各学校では、上記の内容を、いつ、どのような形で進めるか、実態に応じて工夫している例を紹介します。

【工夫例】
・校内委員会と不適応対策委員会を同時に開催する。
・保護者の気持ちを聞き、連携して支援を進める。
・学年会を活用し、個別の指導計画の支援方法をチームで検討する。
・放課後に「目標・支援共通理解の会」を設け、かかわる先生方（支援チーム）に、いつ、だれが、どんな支援をするか確認する。

★個別の指導計画を作成し、チームで日々の支援を実践

長期目標（１年間）の設定

長期目標		
短期目標	支援方法	評価
例）国語の学習時間に、１５分間、私語をしないで取り組む。		

短期目標（１学期あるいは前期）の設定
・目標は、必ず実践するものに絞って記入します。スモールステップで目標を立てます。
・**場面（いつ）条件（どのようなときに）基準（どのくらい）行動（どうするのか）を記入することで、児童生徒自身が取り組みやすくなります。**

ここがポイント！

・具体的な支援方法や手立てを決めます。
・いつ、だれが支援するのかも決めておきましょう。

・児童生徒の変容や、課題を記入します。
・変容がみられたら次の目標を立てます。
・目標が達成できないときには、目標や支援を再度検討します。

ＰＤＣＡサイクルで実践しましょう。